



MARCH 2014

CWAJ annual report 2013-2014

キーワードは英語と高等教育

— CWAJ の視覚障害者支援活動

視覚障害者の支援は、CWAJ の重要なミッションのひとつです。活動の中心である奨学金制度、教育プログラム、現代版画展のすべての領域で、視覚障害者との交流やサポートを長年にわたって続けています。とくに外国人会員によるプログラムは、生の英語に触れる得難い機会として喜ばれています。情報技術の急速な発達でアクセシビリティが高まり、視覚障害者にも進学、留学やキャリア形成の機会が広がった現在、CWAJ の果たす役割はますます大きくなっているといえましょう。

CWAJ 視覚障害学生奨学金

かつて男性に比べて海外留学の機会が少なかった女性のために奨学金制度を立ち上げた CWAJ は、同じ理由で 1978 年に日本で唯一の視覚障害学生のための奨学金を創設しました。アルバイトをすることの難しい視覚障害学生にとって、返済義務のない奨学金はとくに大きな意味を持っており、応募者は年々増加しています。現在までに 62 名が給付を受け、教育、科学、司法、企業、芸術などの分野でめざましく活躍しています。2013 年度は 2 名に各 150 万円が支給されました。(p2, 3 参照)

2010 年にこの奨学金を受けた相羽大輔氏(筑波大学大学院人間総合科学研究科)は、2013 年 10 月に博士号を取得、今春より愛知教育大学の教員になりました。

「あまりに道のりが厳しいため、途中で夢を諦めた仲間を、たくさん知っています。私がそれでも研究を続けてこられたのは、私の夢を認め応援して下さいた皆様の力添えがあったからです。CWAJ の奨学金は、長い学生生活を続けるために不可欠なものでした。

今後は視覚障害のある子どもたちのために貢献していきたいと決心しています。」

ハンズ・オン・アート — 視覚障害者と楽しむアート

毎年秋に行われる CWAJ 現代版画展では、視覚に障害のある来場者も版画を楽しめるよう企画された「ハンズ・オン・アート」というコーナーを設けています。200 点余りの出品作の中から数点を選んで立体コピーを作成し、手で触れて鑑賞できるようにしたものです。2013 年には彫刻家の柳澤飛鳥氏の協力で、版画を忠実にレリーフにした作品も加わり、好評を博しました。さらに訓練されたボランティアが会場内をガイドして、言葉で作品を説明しています。英語の学習を兼ねて外国人ガイドを希望する来場者も少なくありません。昨年は 21 名の来場者を延べ 40 名のボランティアが案内しました。

なお「ハンズ・オン・アート」は晴眼者、とくに子どもたちにも大変人気があり、視覚障害への理解を深める良い機会になっています。

視覚障害者との交流の会 (VVI)

1975 年に発足した VVI (Volunteers for the Visually Impaired) は、英語を中心にさまざまな活動を通して、視覚障害者の社会参加の手助けをしています。

・英会話の集い

視覚障害者が、大使館、美術館などさまざまな場所で CWAJ 会員やゲストと英会話を楽しく学びながら、異文化に触れる集いです。毎回 100 名を超える視

覚障害者に案内を送っています。2013 年には 3 回の集いを行いました。

・日本盲人職能開発センター 英会話クラス

四谷にある同センターで、年間 48 週、毎週 2 日 2 時間ずつ、視覚障害者の職能訓練の一環として英会話の指導をしています。



・英検模試 — 筑波大学附属視覚特別支援学校

2013 年は 6 月と 10 月の 4 日間、CWAJ ボランティア 34 名が高校生 24 名に英語検定の模擬面接試験を実施しました。このプログラムは CWAJ が独自に企画しているものです。



・日本語ニュースレターの発行

視覚に障害のある読者対象の日本語ニュースレターを年 3 回発行しています。メール、点字、拡大コピーで、2013 年には全国 204 名の視覚障害者に配布しました。CWAJ の活動を知らせるだけでなく、国際感覚を磨き、社会への関心がひろがるような情報を盛り込む努力を続けて、読者は毎年増加しています。

CWAJ 福島支援 プロジェクト

CWAJ の福島支援も 3 年目に入りましたが、復興にはなお長い年月を要します。これまでに築いた人の繋がりを大切にしつつ、教育や芸術の分野を中心に活動を続けていきたいと願っています。皆様のご協力をお願いいたします。

「相馬広域こころのケアセンターなごみ」

東日本大震災から 10 か月後、福島県相馬市に発足した「相馬広域こころのケアセンターなごみ」に、CWAJ は車椅子対応の巡回送迎車を寄贈しました。CWAJ のロゴをつけた白いバンは現在も相双（相馬・双葉）地区を巡回しています。



前年度に引き続き、なごみへは自動車保険料 12 万円と、子どもたちのクリスマス会のための寄付金約 4 万円、玩具、お菓子、文房具などが贈られました。

福島被災学生奨学金

東日本大震災で被災したにもかかわらず強い決意をもって勉学に励む福島県立医科大学看護学部 の学生 2 名に、2014 年度も引き続き、年間授業

料にほぼ相当する年額 50 万円の奨学金が支給されました。同奨学金の受給者は 2014 年度を含めて 6 名（複数年受給者を含む）、給付額の総計は 450 万円にのぼります。

2012 年度奨学生の青木みずほさんは、2013 年 3 月に保健師、助産師、看護師の国家試験すべてに見事合格を果たし、現在は病院の助産師として仕事に打ち込んでいます。

2012 年度から 2 年間給付を受けた山田紘子さんと秋山彩子さんは、2014 年 3 月に卒業予定です。二人はレポートに次のように書いています。「福島の復興はまだまだ進んでいるとはいえない状況ですが、県民は希望を持って生活しています。この奨学金は震災によりどん底まで沈んだ私に、安心と希望を与えてくれました」「原発事故の被災後、大学に残るべきか、子どもの健康を優先すべきかと悩まない日はありませんでした。しかし CWAJ より奨学金を受けられることができ、福島県の学生を応援して下さる方があったと知りました。大学を辞めるのは簡単ですが、辞めれば後悔したと思います。奨学金を得たことで、もう一度看護師の資格取得へ向けての意欲が高まりました」

2013 年度奨学生の小島史圭さんと長澤園子さんは、今年度も学業を続けます。長澤さんは現在も放射線を心配して幼い子どもの外遊びを制限し、休日ごとに遠方に連れて行く生活です。それでも学外活動として児童自立支援施設で学科指導員を務めたほか、働く女性の出産・育児を含めた健康な生活をサポートする仕事をめざし、労働衛生コンサルタントの国家試験準備も進めています。

福島アート・プロジェクト

CWAJ では、多摩美術大学の海老塚耕一教授による、遊びを通して楽しみながら美術に接し創造力を育てる子どものためのプログラム、「あそびじゅつ」を福島県内で開催することを目指して、昨年より準備を進めてきました。福島市の福島県立美術館と福島県須賀川市の須賀川商工会議所青年部が、CWAJ と共催で 2014 年 7 月に「あそびじゅつ」を開催する運びとなり、会場は県立美術館と須賀川市内の牡丹会館が予定されています。

須賀川市では地元出身の江戸時代の銅版画家、亜欧堂田善を記念して、毎年田善顕彰版画展が開催されています。小・中学生の応募は数千名にのぼり、小学生、中学生の部それぞれの最優秀作品に田善賞が贈られます。CWAJ は 2013 年より、同賞の副賞として、受賞者 2 名と保護者を CWAJ 現代版画展に招待しています。2013 年秋の CWAJ 版画展には第 24 回田善賞の須藤雄哉さん(当時小 4)と小貫峻輔さん(同中 1)が来場し、多彩な版画作品を熱心に鑑賞しました。(写真下)



また今年 2 月に行われた第 25 回田善賞表彰式には、大雪の中を CWAJ の代表者 3 名が出席して副賞を授与しました。

CWAJ 海外留学大学院女子奨学金

2 名、支給額 各 300 万円

新井 雪 (あらい ゆき)

米国コーネル大学法科大学院修士課程
国際人権法・難民法専攻

成井 諒子 (なるい りょうこ)

英国キングス・カレッジ・ロンドン人文学部
メディカル・ヒューマニティーズ専攻

CWAJ 外国人留学生大学院 女子奨学金

2 名、支給額 各 150 万円

アクトル、ナスリン

(バングラデシュ人民共和国)

山形大学医学部大学院医学研究科

博士課程 免疫学専攻

邵 丹 (ショウ タン)

(中華人民共和国)

東京大学人文社会系研究科修士課程
比較文学専攻

CWAJ 東京アメリカンクラブ・ウィメンズグループ奨学金

1 名、支給額 150 万円

バス、ムリティカ (インド)

京都大学大学院博士課程地球環境学
持続可能な田園開発専攻

CWAJ アメリカ・カナダ大学連合 日本研究センター奨学金 (IUC)

1 名、支給額 200 万円

プライス、デボラ (米国)

米国 UCLA アジア系言語・文化学修
士課程修了 日本古典文学専攻

2013 年度 CWAJ 奨学生



CWAJ 福島被災学生奨学金

支給額 各 50 万円

福島県立医科大学看護学部

秋山 彩子 (あきやま さいこ) 4 年

山田 紘子 (やまだ ひろこ) 4 年

小島 史圭 (こじま ふみか) 3 年

長澤 園子 (ながさわ そのこ) 2 年

CWAJ 視覚障害学生奨学金

2 名、支給額 150 万円

幡野 博基 (はたの ひろき)

中央大学法学部国際企業関係法学科 法律学専攻

上條 治夫 (かみじょう はるお)

富山大学大学院生命融合科学教育部博士課程

先端ナノ・バイオ科学専攻

CWAJ60 周年記念海外特別奨学金

1 名、支給額 18 万円を 5 年間

ガヤガイ、サンドラ・グリーン

セントルイス大学医学部 (フィリピン、バキオ市)

奨学生に託す明るい未来



「あのとき CWAJ から渡航費用を支給されたことで、私の人生は変わりました」2013年5月のCWAJ昼食会にゲストスピーカーとして招かれた奈良橋陽子氏は、冒頭で感謝の言葉を述べました。映画『ラストサムライ』や『終戦のエンペラー』のキャスティング・ディレクター/プロデューサーとして知られる同氏は、1969年にCWAJの渡航費援助制度を利用して、ニューヨークで演劇を学びました。帰国後は演出家・作詞家として活躍、自ら立ち上げた制作会社UPSなどを通じて国際俳優を養成し、日本からハリウッドへの橋渡しの役割を果たしています。

日本人の海外留学を助けるために始まったCWAJの活動は、400名以上の男女学生に渡航費を援助したのち、女性リーダーを育てるための奨学金制

度へと発展しました。現在では海外留学する日本人女子大学院生、日本留学中の外国

人女子大学院生、視覚に障害のある男女学生、福島県の被災学生を支えています。

CWAJ 奨学金は、毎年開催されるCWAJ 版画展の純益および個人・法人の寄付金により賄われ、これまで62名の視覚障害者、332名の女性、渡航費援助を受けた400名の男女のキャリア構築に寄与してきました。同窓生は、教育、人権、医療研究、メディア、環境科学などの第一線で活躍する素晴らしいリーダーとなっています。

2011年度にCWAJ 外国人留学生大学院女子奨学金を受けたトルコのスムル・ケチエリ氏は、昨秋、日本学術振興会の外国人特別研究員に選出されました。「難関を突破してこのような名誉ある賞に選ばれるとは、思ってもいませんでした」とCWAJに感謝を述べた同氏は、今後2年間、愛知県岡崎市の総合研究大学院大学生理学研究所で、融合脳計測科学の研究を続ける予定です。

2012年にCWAJ 岡靖秀記念視覚障害学生奨学金を受けた守井清吾氏は、「見えないからできない」という周囲の決めつけを払拭したいと、理数分野

における学習改善のため、視覚障害者が自分で画像を描ける機器を研究開発してきました。「この奨学金が大きな励みとなり、このたび博士号を取ることができました。私が今日あるのはCWAJのおかげです」と述べています。

3.11の大震災直後から被災地のために何ができるかを模索した結果、やはり当会の設立理念である、若者たちの教育支援に行き着きました。福島被災学生奨学金は2012年度の開始以来、福島県立医科大学看護学部の被災学生に年50万円を支給しています。看護学部生対象の奨学金は、CWAJだけです。(p2参照)

CWAJ 奨学金同窓生は、年月を経ても会員と強い絆を保ち続けています。CWAJ 会員として後輩を助ける側になった同窓生もいます。CWAJでは新たな試みとして、奨学生の友情と絆を育むための同窓生ネットワークを立ち上げる計画です。

奨学金制度40周年を記念して作成されたスライド・ショーで奨学金プログラムのハイライトと業績をぜひご覧ください。

<http://www.cwaj.org/Scholarship/scholars1972-2012.html>

CWAJ 現代版画展



2013年の第58回CWAJ現代版画展のハイライトは、特別展示『篠田桃紅 百歳を寿ぐ』でした。CWAJ版画展に長年にわたってご協力いただいている篠田桃紅氏が3月に百歳を迎えられたことを記念して、16点の作品を展示・販売したものです。10月12日のオープニングレセプションに出席された篠田氏は、年齢を



感じさせない張りのある声で冗談を交えながら挨拶、「この女性だけのボランティアの団体が、日本の版画界のために果たした役割は計り知れません」との言葉に、会員は胸を熱くしました。

1956年から回を重ねてきたCWAJ現代版画展は、その名のとおり日本の現代版画の粋を集めた公募・招待展です。著名作家から気鋭の新人まで多数の版画家の協力を得て、木版、銅板、リトグラフ、孔版、シルクスクリンと多彩な技法による版画作品を紹介

し、販売しています。版画展の純益はすべてCWAJ奨学金・教育プログラムと福島支援プロジェクトに使われ、CWAJの活動の基盤となっています。

2013年は、東京展から1週間後の10月18日-20日に神戸外国倶楽部で第3回神戸展を開催しました。今回からは神戸ビエンナーレ連携事業として公式ガイドブックにも掲載され、多くの来場者を集めました。アメリカンクラブのフレッド・ハリス・ギャラリーで開かれた併設展は、『版画家たちの道い筋も』のタイトルで、池田良二、大久保澄子、坪内好子、山中現 各氏の、焼物、油絵、ガラス絵、オブジェなど版画以外の作品を展示しました。2014年は「食」をテーマにした版画の企画を進めています。

CWAJは若い版画家の支援の一助として、1985年に「CWAJ版画家奨励賞」、2005年に「CWAJヤング・プリントメーカー賞」、2011年には奨励賞に代わって「CWAJアーティスト・イン・レジデンス・プログラム」を創設しました。

お知らせ

第59回CWAJ現代版画展

2014年10月17日(金)-19日(日)
東京アメリカンクラブ
(港区麻布台 2-1-2)

CWAJ 併設展

2014年9月29日(月)-10月19日(日)
東京アメリカンクラブ
フレッド・ハリス・ギャラリー

お問合せ: PrintShow@cwaj.org

2014年CWAJ ヤング・プリントメーカー賞 (YPA賞) 1名 賞金50万円

岡田 育美

多摩美術大学大学院2年

卒業後も「裏彫り」の研究を続けるために、賞金を使って木版画プレス機を購入する予定です。

2013年CWAJアーティスト・イン・レジデンスプログラム (AIR) 1名 支給額80万円

門馬 英美

武蔵野美術大学修士課程修了

三輪田学園中学高等学校 美術講師

東京大学総合研究博物館事務補佐員

派遣先 バスコシア美術デザイン大学 (カナダ)

派遣期間 2013年7月24日-10月1日

門馬氏には、AIRの成果報告となる作品を2014年の版画展で展示していただきます。

カルチュラル・プログラム

CWAJ のカルチュラル・プログラムとは、文化的、教育的、社会的なプログラムを、会員を始め一般の方や日本在住の外国人、学生にも楽しんでいただくために開かれる催しです。通常、プログラムは英語で行われます。

2013年5月14日には、港区の国際文化会館にて「着物マジック」ショーが開催されました。これは和服を独創的なスタイルにアレンジして紹介する目的で行われ、120名以上の観客を集めました。多数の会員が和服や着物地で作られたものを身につけて出席してイベントに花を添えました。写真撮影も盛んに行われて、後日、記念アルバムも作成されました。



9月18日には渋谷の伝承ホールにて、十五夜の前夜祭にふさわしい竹笛のコンサートが催されました。笛子（中国の横笛）は日本ではあまり馴染みがなく、150名を超える聴衆の多くにとっては初めて耳にする音色でしたが、王明君氏の中国笛子と及川夕美氏のピアノの素晴らしい演奏に、会場中が酔いしれました。

上記2回のイベントで、CWAJ 奨学金・教育プログラムのために80万円以上のご寄付を集めることができました。

2014年度もカルチュラル・プログラムとして、つぎの二つの催しが計画されています。

CWAJ はこんな団体です

一般社団法人 CWAJ (College Women's Association of Japan) は、さまざまな国の女性たちが幅広い交流の中で友情を深めながら、首都圏を中心に教育・文化活動をおこなっているボランティア団体です。

1949年に日本人留学生への渡航費援助を目的に発足した小さなグループが、現在では約30か国から集まった450名の会員を有する会となりました。全員が無償のボランティアとして、毎年版画展やさまざまなイベントを開催し、その純益で奨学金を提供するほか、視覚障害者や帰国児童のための英語クラスなど、楽しみながら教育支援を進めています。活動は外国人と日本人がペアを組んで、原則として英語でおこないます。

CWAJ 入会についてのお問合せはこちらへどうぞ。
membership@cwaj.org

「ハンナのかばん」上映会

2014年5月11日13時半より、千代田区六番町の Ohmae@Work ビルにて、アウシュビッツに送られた少女ハンナと現代の日本の子どもたちが、一つのかばんをきっかけに半世紀の年月を越えてつながら感動の実話、「ハンナのかばん」の映画会が行われます。上映後には原作の翻訳者であり作中人物でもある、ホロコースト教育センター代表の石岡史子氏による講演も予定されています。

秋には、ユネスコ世界遺産に認定された「和食」をテーマにしたイベントを予定しています。

お問合せ、お申込みは

CulturalProgram@cwaj.org まで。

教育プログラム

帰国児童英語サポートの会

英語圏などから帰国した小学生がせつなく覚えた英語を保持できるように、毎週水曜日、東京ウイメンズプラザにて、CWAJ ボランティアが Children's English Circle (帰国児童英語サポートの会) を開いています。2013年度には30回開催しました。アート&クラフト、ゲーム、ドラマ、読書、作文など創造力を育む教材を用意して、帰国児童が楽しい環境の中でのびのびと英語を話せるよう工夫しながら活動しています。

外国人留学生との交流会の会 (Foreign Students Circle)

日本で学ぶ留学生に文化プログラムを提供し、お互いの交流を深めながら、日本文化や生活習慣への理解を深める活動を行っています。2013年度は、ひな祭り華道講習、重陽の節句と茶道講習、能や歌舞伎の鑑賞、奥多摩散策と玉堂美術館および櫛かんざし美術館見学、かるた大会(写真下)等のプログラムを企画して、12か国43名の留学生が参加しました。2014年度は茶道講習と五島美術館見学、盆石展示会見学、歌舞伎鑑賞、流鏝馬の見学等を企画しています。



2度のラッフル開催

2013年10月のCWAJ 現代版画展開催に合わせてラッフル券を販売し、最終日に会場で抽選会を行いました。特賞はユナイテッド航空ご提供によるアメリカ往復ビジネスクラス航空券2名様分、その他、グランドハイアット東京、フリージャパン株式会社、90 プラスワインクラブ、イースタンカーペット、加藤ギャラリー、シェ草間、エリオロカンダイタリアーナ、国際デンタルクリニック、アロマティックビューティーハウス、トイザラス、茜庵より賞品をご寄付いただき、833,500円を集めることができました。皆様のご協力に感謝申し上げます。このラッフルは2014年も開催予定です。

さまざまな手作りクラフトを楽しんだり、作品展を見学したりして、お互いに新しい技術を学びあうグループ、フレンドリークラフターズが、2013年12月の月例昼食会に、震災後3回目となるラッフルを催しました(写真下)。美しいクラフト作品25点を賞品に提供し、売り上げの161,000円はすべて福島支援プロジェクトに充てられました。



ご支援ください

CWAJ へのご寄付は、金額を問わず年間を通してお受けしています。

振込先：三菱東京UFJ銀行目黒支店
店番：680 普通 0259076
口座名：一般社団法人 CWAJ

お問合せ：

CWAJ 寄付金委員長 近藤登茂栄
E-mail: donations-j@cwaj.org

本年度より、CWAJ へのご寄付は、国際交流基金の特定寄付金制度を通じて、日本国内での税制上の優遇措置を受けることができるようになりました。この制度の活用をご希望の方は、寄付申込書の該当する欄に印をおつけください。

CWAJ 教育・奨学金プログラム、CWAJ 福島支援プロジェクトにみなさまがお寄せくださる寄付金により、意欲にあふれる若者たちが勉学の夢を実現させ、国内外のそれぞれの分野で社会に貢献する活躍をしています。



CWAJ College Women's
Association of Japan

一般社団法人 CWAJ

CWAJ センター

141-0021

東京都品川区上大崎 2-24-13-703

Tel/Fax 03-3491-2091

www.cwaj.org